

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(2/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.7	4.5	4.6	4.8	<p>・多くの指標で目標を上回って進捗しており、地域独自の取組みも多岐にわたっていることから、著しく優れている。</p> <p>・竹燃料のようなユニークな試みも含めて、人口規模が大きな島でおよそ1/3のエネルギー自給を達成していることは特筆すべき実績である。</p> <p>・小中規模の太陽光発電施設の系統連系手続きや、電気主任技術者の外部委託等の手続きを短縮するための制度の活用を進めるなどの積極的な自治体の努力が、施設の整備につながっていることが高く評価される。</p> <p>・再生可能エネルギーの「テストアイランド」として、変動性再生エネルギー発電比率の拡大による電力システムの安定性などを含めて、実績を広くアピールすることや、現在の農業振興の取組に加え、本特区の技術観光や京阪神に近いという地理的優位性を活かした企業誘致等も検討するなど、「淡路島」という地域ブランドの確立を図られることを期待する。</p> <p>・持続人口の見通しがやや不透明な中、エネルギーの持続・自立と地域活性化との結びつきを象徴させる、さらなる取り組みが期待される。例えば、地域独自の取り組みである施設園芸への竹チップボイラー暖房から、長期的には、さらに排ガス改質によるCO2の施設内貯留・施用やICT等による統合環境制御での省エネ・付加価値化など、エネルギー・環境を考慮した施設園芸の高度化なども視野に入れてみてはどうか。</p>
		<p>進捗度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー(電力)自給率 106%</li> <li>・二酸化炭素排出量 120%</li> <li>・再生可能エネルギー創出量 102%</li> <li>・竹燃料の消費量 81%</li> <li>・新規就農者数 67%</li> <li>・再生利用が可能な荒廃農地面積 114%</li> </ul> <p>等</p>	<p>規制の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続きの明文化 等</li> </ul> <p>財政支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋上風力発電の事業化可能性調査</li> </ul> <p>地域独自の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 等</li> </ul>		